

～ 募 集 要 項 ～

「立教チームでつなぐ被災地支援プロジェクト（令和6年 能登半島地震）」

主催：立教大学ボランティアセンター 主な活動：コミュニティ支援イベントの運営

ボランティアセンターでは、2024年1月1日（月）に発生した「令和6年能登半島地震」について、石川立教会に所属する本学校友のつながりから「石川県七尾市内・和倉温泉周辺」を活動拠点とする「立教チームでつなぐ被災地支援プロジェクト」を立ち上げました。7月に第1弾、8月に第2弾の活動を現地で実施。その後も学内で「災害ボランティア勉強会」などを開催してきました。

第3弾では、第2弾の活動時に参加メンバーが「立教チームの学生ボランティアが目指すもの」としてまとめた“VISION”を踏まえて、立教チーム独自のコミュニティ支援活動を実施する予定です。和倉温泉地域で共に活動し、コミュニティ支援のイベント運営を担う立教生を募集します。ボランティアコーディネーター（職員）も全日程一緒に活動し、みなさんをサポートしますので、ボランティア未経験者もぜひご参加ください。

1. 実施目的

「令和6年能登半島地震」における災害被災地の復旧・復興に、立教チームとして貢献すること。

2. 立教チームの活動“VISION”（※別紙1参照）

第2弾の参加メンバーが、活動中に出会った現地の方々の声をもとに、立教チームとして目指すものをまとめました。第3弾の活動は、このVISIONを踏まえて実施します。

3. 募集概要

実施期間：2025年2月17日（月）～20日（木）の3泊4日

※上記期間以外に、事前学習（1回）を実施いたしますので必ずご参加ください。

活動場所：石川県七尾市和倉温泉周辺

宿泊先：宝仙閣（石川県七尾市和倉町ヨ部19-2）

募集人数：5名程度 ※選考あり（最少催行人員：3人）

募集対象：本学学生（学部生・修士課程の大学院生）

参加費：10,000円（金沢駅～和倉温泉駅の往復交通費、宿泊費、宿泊先での食費、保険料）

※大学から交通費・宿泊費に対して一部補助を行うため上記の金額となります。

※金沢駅まで（行き）・から（帰り）の交通費については、補助金（一律最大12,500円の補助）の申請が可能です。同補助金は活動後の振り込みとなります。

※和倉温泉駅～和倉温泉までのバス乗車料、宿泊先以外での食費・入浴料は自費です。

活動内容：旅館「多田屋」などでの作業、コミュニティ支援イベントの運営（予定）

現地受入先：旅館「多田屋」ほか

使用言語：日本語（日本語レベル：J5以上での参加が望ましい）

事前学習：2月14日（金）9：30～12：30 @池袋キャンパス ボランティアセンター（5号館）

第3弾の活動内容について

和倉地域に住む方々が、被災者としてではなく一人の住民としてこれまでの日常を想起し、和倉地域への愛着を深められるように、写真をもとにした語りの場を企画・運営します。

そこでの語りは、今回の参加メンバーが記録し、広く発信していく予定です。語りを引き出す・受け止める、声を言葉・文字に記録することに取り組みます。詳細は、事前学習の場でお伝えします。

これまでの活動の詳細は、
ボランティアセンターの公式noteから
ご確認ください。



4. 活動にかかる交通経路

【集合】 場所：金沢駅 5 番線ホーム 「能登かがり火 3 号（和倉温泉行）」乗車口周辺

時間：9 時 50 分 → 10 時発

【解散】 場所：金沢駅 構内

※16：36 金沢駅着の「能登かがり火 8 号（金沢行）」に乗車 → 金沢駅到着後に解散

5. 応募について

- ① ボランティアセンターの SPIRIT ページから参加申込書をダウンロードし、必要事項を記入の上、池袋または新座キャンパスのボランティアセンター窓口でご提出ください。
- ② 申込時点で、本年度の大学の健康診断またはそれに代わるものを受診していることが必須です。本年度の大学の健康診断を未受診の場合は、外部の有料健康診断を受診し、本学保健室にて「通学定期乗車券発行控」に健康診断を受けた証明の印（健診済印）を押してもらった上で、申込時にボランティアセンターへ持参してください。
(参考) <https://spirit.rikkyo.ac.jp/health/checkup/SitePages/pay.aspx>

6. 募集期間：～ 2025 年 1 月 28 日（火）17：00

- ・ 申込内容をもとに選考を実施します。
- ・ 選考結果の通知はメールでお送りいたします。必ずご確認ください。

7. 応募スケジュール（採用後の流れを含む）

- ～1/28（火）17：00 まで：「参加申込書の提出（ボランティアセンター窓口へ提出）」
※健康診断の受診を確認できるものを持参
- 1/30（木）：「採否の通知（立教メール）」を受け取る
- ～2/3（月）15：00 まで：「参加費の入金締め切り」
※10,000 円分の証紙を購入し、入金伝票に貼り付けてボランティアセンターに提出
- 2/14（金）：「事前学習」への出席
9：30 - 12：30 @池袋キャンパス ボランティアセンター（5号館）
※顔合わせ、当日の活動や用意する装備についての案内など

8. 補助金の申請について（別紙 2 参照）

金沢駅まで（行き）・から（帰り）の交通費について、条件を満たす場合に補助金（一律最大 12,500 円の補助）の申請が可能です。詳細については、「別紙 2」をご確認ください。

9. 問い合わせ

立教大学ボランティアセンター（E-mail：volunteer@rikkyo.ac.jp）

池袋：5 号館 1 階（TEL：03-3985-4651）／ 新座：7 号館 2 階（TEL：048-471-6682）

以上

(別紙)

～立教チームの“VISION”～

本プロジェクトには、第1弾の実施前から設定している活動目的(MISSION)があります。しかし、第2弾の活動では、「その目的が現地で活動する際に”意識するもの”としては抽象的すぎる」「自分たちが何を意識し、何を目指して活動していけばいいのかわかりにくい」という提案があり、「立教チームとして何を指すのか」を探る話し合いを始めました。

その後、提案者を中心としながら、自分たちが現地の方々から聞いた声や見たもの、感じたこと、それぞれの思いを整理しました。最終的に文章としてまとめたのが、立教チームの活動“VISION”(立教チームとして目指すこと)です。

和倉に対して

架け橋

外部である私には、伝えたい側 ども 伝えられる側 どもなく (和倉) に入りたい方が多いのでは?

伝えるのは住民、
伝えられるのも住民
→ その間に入る → 架け橋

復興ビジョン

新しい和倉を創るための
(住民やスタッフの) 小さな声を
集め、伝える役割

住民スタッフ

学生

政策推進者
経営層

和倉温泉の地域活性化に向けて、「観光の盛り上がり」と「地域の再生」を実現するため、若者である自为たちが住民と住民の間に入り、人と人をつなぐ架け橋になる。

自为たちが見聞きしたこと
VISION①

デザイン: 宇野美咲 (文学部 史学科 3年 / 第2弾参加者)

和倉に限らず

自为たちの言葉

自为たちから伝えたいものを和倉に限らず

自为たち(外部)から見たいことや得たい情報の範囲を和倉に限らず

和倉に限らず

和倉を含める社会全体

自为たちの言葉

自为たちが見聞きしたこと

自为たちが、
現地で活動したことで
得られたものを、
自为たちの言葉として
発信する。

目的: 意識をつくる
(学生) = 0-1のトリガーの存在に。
→ ①防災意識を高める。
②ボランティア参加者を巻き込む。
③当事者意識を引き出す。

和倉を含む社会全体に私たちが見聞きしたことを発信することにより、一人ひとりの当事者意識を引き出し、防災意識を高めたり、ボランティアを巻き込んだりする。

自为たちが見聞きしたこと
VISION②

デザイン: 宇野美咲 (文学部 史学科 3年 / 第2弾参加者)